

海外アルミ 為替とも 米利上げ問題などが左右か

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

十月前半は、九月の米ISM指数が三カ月連続低下した事、八月の独貿易黒字は一九六億ユーロに縮小、輸出は前月比五・二%減だった事から中国の景気減速懸念が台頭するなどのマイナスマテリアルもあつたが、九月の米雇用統計で雇用者の伸びが市場予想を大きく下回り、米サブプライムマネジメント協会(ISM)が五日発表した九月の米非製造業景況感指数は前月から二・一ポイント低い五六・九と市場予想(五七・七)を下回ったことから米連邦準備理事会(FRB)による利上げ開始が年明けにもずれ込むとの見方が浮上。また八月のユーロ圏小売り売上高が前月比変わらず、前年比二・三%増だったことを好感しLMEアルミ相場はUP、十月十五日時点一、五六六ドル(現物後場買)と月初価格から二ドルUPの前半締めとなった。

後半は、九月の米中古住宅販売件数は前月比四・七%増の五五万件と予想上回る。十月のユーロ圏PMI速報値は総合が五四・〇に上昇、製造業PMIは五二・〇、十月の米製造業PMI速報値は五四・〇と予想の五二・八を上回った事などのプラス材料もあつたが、ECBのノボトニー氏が金追加刺激策に言及した事からユーロ安・ドル高が加速したこと、九月の中国の鉱工業生産は前年同月比五・七%増加、予想の六%増を下回ったこと、3Qの中国GDP成長率が七%を下回り、六年半ぶりの低水準にとどまったことからDOWN、十一月六日現在LME(現物後場)一、四七六ドルと後半スタート価格から七〇・五ドルDOWNしてのスタイトとなった。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一・〇・八三→一一・二二・〇三(円)

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比二・六%減の八五万一、二七七台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・二%増の二四万〇、八八九台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・六%増の七万七、八七二戸であった。

◆貿易関連指標
輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比二一・八%増の六七七、二次合金が四・九%減の

アルミ輸入は内需低迷などで減

一、二九七七、前月比でスクラップが五・七%減の七九〇七七、アルミ缶が一七・六%減の三、三〇二七。
アルミ輸入は新地金が前年比二六・五%減の九万五、二五三七、二次合金が一・四%減の八万四、四九六七、スクラップが三〇%減の七三二七、合金スクラップは四七・四%減の三、五七〇七。

■前月の国内指標
日本アルミウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類、押出生産合計は前年比一・三%減の一七万四、一四九七。

日本アルミウム合金協会発表のアルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・一%減の六万七、七〇〇であった。

■概況
【自動車生産】

九月の四輪車生産台数は八二万八、八一七台で、前年同月の八五万一、一七七七台に比べて二、三六〇台(二・六%)の減少となり、一五カ月連続で前年同月を下回った。

九月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。
乗用車七〇万二、三八〇台で二万一、八四七台(二・七%)の減少となり、一五カ月連続のマイナス。このうち普通車は四二万七、四三六台で四、一二六台(一・〇%)の増加、小型四輪車は一五万七、〇一八台で六、二七八台(四・二%)の増加、軽四輪車は一・一七七、九二六台で二万二、二五一台(二・五・九%)の減少。

九月の国内需要は四七万九、三七五台で、前年同月比七・六%の減少であった。うち乗用車三九万九、七六〇台で前年同月比七・四%の減少、トラック七万八、二二六台で同八・六%の減少、バス一、三八九台で同三・七%の増加。
輸出は前年同月比二・二%の増加。(実績)

【自動車販売】

十月の国内自動車販売台数(軽除く)は二四万〇、八八九台で前年比〇・二%増。一カ月ぶりプラス。うち乗用車〇%、貨物一・一%増、バス八・三%増。

【住宅着工数】

平成二十七年九月の住宅着工戸数は七万七、八七二戸で、前年同月比で二・六%増となった。また、季節調整済年率換算値では九〇・〇万戸(前月比三・三%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で七カ月連続の増加となっており、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。(六面へ続く)

(四面より続く)

・反動減の影響が大きかった持家は、前年同月比で五か月連続の増加となった。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比四・一%減の六万七、七〇〇t。一二カ月連続マイナス。出荷は二・三%減の六万九、九三七t。二〇カ月連続マイナス。うち、出荷先では、鋳物一〇・二%減、ダイカスト一・五%増、板四・四%減、押出六・六%増、鉄鋼九・九%減、合金地金メーカ一五%増。

【アルミ圧延・押出品生産数】

一・三%減と七か月連続マイナスの一七万四、一九四t。

【輸出】アルミ新地金が前年比二一・三%減、二次合金が二七・八%増、スクラップが二三・八%減、アルミ缶が前月比一四・一%減。

【輸入】アルミ新地金が前年比三九%減、二次合金が一三・六%減、スクラップが三二・三%減、合金スクラップが五〇・九%減。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大減少の二・六%減。十月の国内販売台数が前年比〇・二%増。生産が一五カ月連続マイナス、販売が一カ月ぶりプラス。生産が一年間以上前年割れとなる中、販売の方が一カ月ぶりに再びプラスに。今後販売のプラスが続くか注視が必要。

・平成二十七年九月の住宅着工戸数は七万七、八七二戸で、前年同月比二・六%増となった。また、季節調整年率換算値では九〇・〇万戸（前月比三・三%減）となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で七カ月連続の増加となっており、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直していると思われる。

・反動減の影響が大きかった持家は、前年同月比で五か月連続の増加となった。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数は主力の押出が建設部門の悪化を受けて減少。唯一期待の輸出が十分にマイナス。今後の動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は自動車関係の悪化を受けて減少。ただ自動車販売の方が一カ月ぶりにプラスとなっており、今後の回復に期待

・輸出は新地金だけが円安を追い風に増加。

・輸入は内需の低迷や円安から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、月を通じて建値が安定したものの中国連休明けへ警戒感から過在庫分が放出したのではないか。

一方メーカーは自動車販売がある一定量はあることから必要量の確保ができてない所もあり在庫は薄くなるため、需給は引き締まるとの予測。

【価格・為替予想】

今月は、基本に立ち返って中国の金融および景気対策問題と米国の利上げ問題に左右される。

中国当局は第一三次五カ年計画でのGDPを六・五%増とし、中国人民銀行は政策金利を〇・二五%、預金準備率を〇・五〇%引き下げたことある程度の評価に値する。

ただ、これだけで年内を乗り切れる可能性は低く、新たな公共事業などの景気対策が期待される。

米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でFRBイエレン議長が十二月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今後の動向に注目。

それらを踏まえた十一月のアルミ価格は、中国当局が景気対策に関してなんらかの前向きなコメントを発し、米国が今月の利上げを行わなかった場合、十月高値の一、六〇〇ドルを予測。いずれかの場合は一、五〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、もう一段安値の一、四〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて新たに十二月説が台頭している。中国株の暴落も落ち着き、ECBは追加金融緩和に前向きなことを考えれば利上げの可能性はある。

それらを踏まえ予測は、上げはアメリカが十二月の利上げを示唆した場合、ECBが追加金融緩和を始める可能性が高まることや新興国からの資金吸い上げそれに伴うドル高の加速判断から、大幅円高の一八円台を予測。下値は利上げを行わなかった場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二円台。